

国営木曾三川公園 整備・管理運営プログラム

[参考資料]

目次

1. はじめに	1
2. これまでの成果と今後の重点的な取り組み	3
3. 整備・管理運営の重点事項	4
4. 各拠点の整備・管理運営方針	5
(1) 三派川地区	5
(2) 中央水郷地区	10
(3) 河口地区	19
5. ネットワーク形成のための整備・管理運営方針	21
6. 事業効果	22

平成25年3月

国土交通省中部地方整備局

1. はじめに

国営木曾三川公園は、木曾川・長良川・揖斐川の木曾三川が有する広大なオープンスペースと豊かな自然環境を活用し、東海地方の人々のレクリエーション需要の増大と多様化に応えるために設置された公園です。川や流域のもつ魅力である自然環境や歴史文化そして広域的な広がり・つながりをいかしながら、これらを守り・感じ・楽しみ・学ぶ場として整備を進めています。

本公園は三派川地区・中央水郷地区・河口地区の3地区（計画面積約6,100ha）からなり、11拠点（約256.5ha）が開園しています。平成23年度には、年間約860万人に来園いただきました。

この整備・管理運営プログラムは、社会資本整備重点計画の計画期間にあわせて、国営木曾三川公園の平成24～28年度までの整備及び管理運営に関する重点事項などを策定し公表するものです。

なお、本プログラムは今後の社会情勢等を踏まえ、必要に応じて見直していきます。

基本理念（国営木曾三川公園基本計画（平成20年12月改定））

【国営木曾三川公園が目指すもの】

①自然環境への理解

- 河川管理者等との連携により河川特有の自然環境や生物多様性の保全・再生に努めます。
- 人々が木曾三川の豊かな自然や長大な河川空間を体験し、川や環境について学ぶための取り組みを進めます。
- 木曾三川の自然を活かした遊びやスポーツなど、国営木曾三川公園ならではの屋外活動の場を提供します。

②歴史文化への理解

- 木曾三川にまつわる歴史文化やその周辺環境について河川管理者や沿川自治体と連携して保全・活用します。
- 木曾三川の歴史文化や川と人との関わりの大切さを学ぶための取り組みを進めます。

③広域への貢献

- 木曾三川全体の自然環境の連続性を確保するとともに、長大な河川空間を楽しめるよう、木曾三川全体をつなぐ利用空間の形成を図ります。また、周辺地域の自然環境や歴史文化資源との接続・連携を図り、観光周遊のネットワークや中部圏の骨格的な水と緑のネットワークの形成に寄与します。
- わが国を代表する広大な河川空間や豊かな流域の歴史文化など木曾三川ならではの資源を活用して人々の広域的な交流を促進し、にぎわいを創出するとともに、内外に情報発信していきます。
- 地域の防災への協力や広域的な防災に資する対応を進めます。

計画面積（都市計画決定面積）、事業承認面積、供用面積

（単位：ha）

地区名	計画面積（都市計画決定面積）			計	事業承認面積	供用面積
	堤内地	堤外地				
		高水敷	水面			
三派川地区	64.5	1,006.4	1,371.0	2,441.9	164.8	86.7
中央水郷地区	80.6	803.1	2,752.0	3,635.7	299.1	169.8
河口地区	2.2	7.4	0.0	9.6	9.6	—
計	147.3	1,816.9	4,123.0	6,087.2	473.5	256.5

※河口地区は、(仮称)七里の渡地区のみの面積。
(平成25年3月末現在)

【取り組みを進めるために】

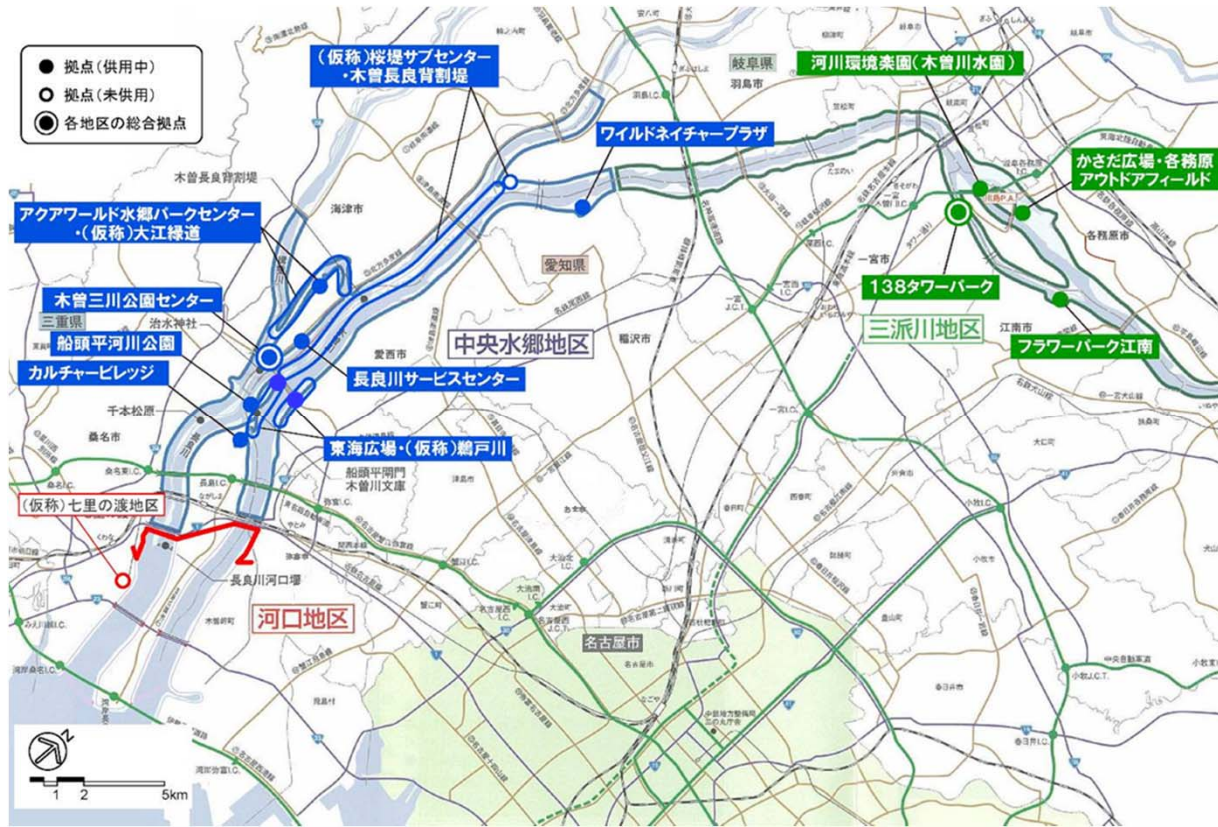
A. より多くの人々が、より楽しむ(レクリエーションの視点)

- より多くの人々が集う場となるよう利用者サービスやレクリエーション内容の向上、充実を図ります。
- 広域交流や楽しみながら木曾三川の豊かな自然や歴史文化に触れるきっかけを提供します。
- 誰もが安心して楽しめるよう、利用者の安全確保とユニバーサルデザインに努めます。

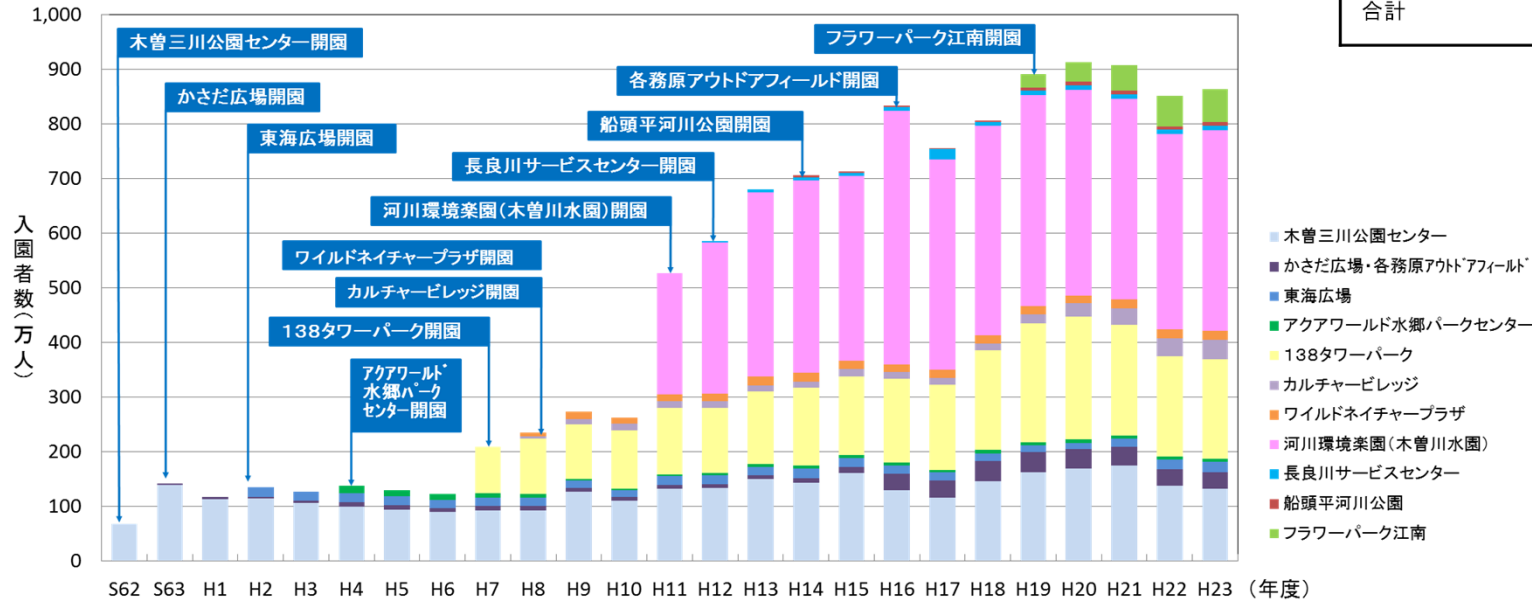
B. より深め、より広げる(参加と連携の視点)

- 木曾三川の自然環境、歴史文化に対する理解を深めるためプログラムの開発提供、指導者の育成などを図ります。
- 市民、NPO、企業、自治体など多様な主体の参加と協働を促進します。
- 沿川地域のまちづくりなどと連携した取り組みを進めます。
- 公園の整備運営のモデルとなる取り組みを進めます。

拠点位置図



入園者数の推移



開園状況

地区	拠点名	開園年月	供用面積
三派川地区	フラワーパーク江南	H19.10	11.3ha
	かさだ広場 ・各務原アウトドアフィールド	S63.7 H17.3	11.3ha 10.8ha
	河川環境楽園(木曾川水園)	H11.7	32.9ha
	138タワーパーク	H7.4	20.4ha
中央水郷地区	ワイルドネイチャープラザ	H8.8	25.0ha
	(仮称)桜堤サブセンター ・木曾長良背割堤	—	—
	長良川サービスセンター	H12.10	88.7ha
	アクアワールド水郷パークセンター ・(仮称)大江緑道	H4.4 —	8.1ha —
	木曾三川公園センター	S62.10	11.0ha
	東海広場 ・(仮称)鶯戸川	H2.4 —	20.1ha —
	船頭平河川公園 カルチャービレッジ	H14.4 H8.5	2.7ha 14.2ha
河口地区	(仮称)七里の渡地区	—	—
合計			256.5ha

平成25年3月末日現在 (—は未供用)

2. これまでの成果と今後の重点的な取り組み

これまでの主な成果

①多様なレクリエーションが楽しめる場として多くの方々に利用されています

木曾三川公園の13拠点のうち、11拠点、約256.5haを供用し、年間を通じて各拠点でイベントを開催するなど、自然の中での様々なレクリエーションが楽しめる公園となっています。

平成20～23年度には年間900万人前後の方々にご利用いただき、平成21年度には、のべ利用者が1億人を突破しました。

②環境学習や歴史学習の場として多くの方々に利用されています

木曾三川の自然環境や歴史文化を体験できる施設の拡充、情報提供する展示物の更新とともに、子ども達が楽しく学べる環境教育プログラムの提供、指導者育成講座などを開催しています。

③水上スポーツの拠点として利用されています

長良川サービスセンターは、障がい者スポーツも含め、レガッタ・カヌーなどの本格的な水上スポーツの拠点として様々な競技大会にも利用されています。ワイルドネイチャープラザでは、ウィンドサーフィンなどを多くの方々が楽しんでいます。

④にぎわいや交流の拠点となっています

平成20年度以降の追加開園、木曾三川公園センターなどの既存施設の機能更新、イベントの拡充とともに、自転車道のネットワーク化等による沿川地域との連携強化などにより、地域のにぎわいの創出や市民交流の活性化に貢献しています。

⑤市民の方々との協働による公園の管理・運営を進めています

市民ボランティアやNPO法人、関係団体等の方々との協働・連携により、新規公園の計画づくり、公園施設の維持管理、環境学習の提供、イベントの開催などの取り組みが進んでいます。

⑥地域の防災性向上に貢献しています

周辺自治体との協定による避難地としての指定や防災施設の整備、防災訓練の場としての活用などにより災害時への備えを充実させています。

今後の重点的な取り組み

①木曾三川の特徴をいかした整備・管理運営を進める

国営木曾三川公園は、濃尾平野のほぼ中央を貫いて流れる木曾川・長良川・揖斐川の木曾三川を基盤とする河川公園です。

今後も引き続き、基本計画に基づきながら“選択と集中”により計画・整備・管理運営の各段階において河川とのつながり、拠点間のつながり、地域との連携を重視し、拠点の魅力の向上を図りながら、一体感のある公園づくりに重点的に取り組みます。そのことにより、人と自然の共生、環境問題への取り組み、快適な暮らしと生活環境の確保、良好なランドスケープ、交流・文化・産業をはぐくむ地域づくりへの寄与など多方面での効果を追求します。

1)水辺の自然環境をいかす

木曾三川固有の河川環境・生物多様性の保全・再生に留意しながら、水辺に近づける場所や川の雄大な景観を楽しめる場など、川の魅力を感じていただくための取り組みを進めます。

また、環境教育プログラムの充実や適正な利用の誘導、きめ細かい環境管理など国営公園ならではの高度な管理運営を行うことで、河川環境の利用及び保全・再生に資する取り組みを進めます。

2)歴史文化資源をいかす

木曾三川固有の資源としての歴史・文化等をいかしつつ、周辺のまちや地域資源と国営公園を結ぶ機能を拡充するなど、さらに個性的で魅力あふれる拠点の整備・管理運営を進めます。

3)地域と連携し、ひとつの公園としての一体感を創出する

広い範囲に拠点が存在する特色をいかして、ひとつの公園としてより高い効果を発揮するため、複数の拠点が連携した取り組み、周辺のまちづくり、地域の方々と連携した取り組み等を進めます。

さらに災害に強い地域づくりにも寄与できるよう、関係機関との連携を図ります。

②全拠点の早期開園をめざし整備を進める

基本計画に位置づけられているものの整備に着手していない拠点や、開園していないエリアについて、コスト縮減を図りつつ、全拠点の早期開園をめざします。

③より安全快適な施設(再)整備を進める

すべての方に安全・快適に公園を利用していただけるよう、既存ストックの機能の検証や必要な改修、ユニバーサルデザイン化など、長寿命化の観点で計画的な維持管理と施設更新を進めます。

④効率的・経済的な整備・管理運営を進める

今後とも利用者の皆様に満足していただけるよう、公園施設・サービスの維持・向上を図りつつ、効率的・経済的な整備・管理運営に努めます。

3. 整備・管理運営の重点事項

<整備>

川に親しみ学ぶ場や歴史文化に触れることのできる場を提供します

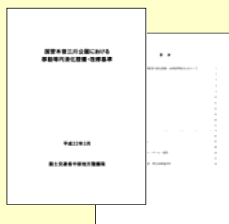
- 河川特有の自然環境の保全・再生を図りながら、良好なランドスケープを育み、川に親しみ、遊び、憩うことのできる公園を整備します。
- 歴史文化遺産に触れることのできる新たな拠点として「(仮称)桜堤サブセンター・木曾長良背割堤」「(仮称)七里の渡地区」の整備を進め、公園機能の拡充を図ります。
- 木曾三川をフィールドとした環境教育プログラムの充実に努め、様々な環境問題、人と自然の共生への啓発を進めます。
- 木曾三川にまつわる歴史文化を活用した学習機会の充実に努め、個性的で魅力あふれる地域づくり・活性化に寄与します。



(仮称)七里の渡地区

安全・快適に利用いただける施設とサービスを提供し、災害時に避難地や防災拠点として機能するよう備えます

- すべての方に安心して公園を利用していただけるよう、園内のユニバーサルデザインを進めます。
- 障がいのある方や高齢者、小さなお子様連れの方も楽しめるスポーツ・レクリエーションの充実に努めます。
- 施設改修にあわせ案内サイン等のデザインを統一します。
- 避難地や防災拠点としての機能を発揮できるように、施設整備や自治体との連携体制の確立を図り、災害に強い地域づくりに貢献します。



移動円滑化整備
改修基準



障がい者スポーツ

沿川のまちづくりと連携した取り組みを進めます

- 市民交流や観光の拠点として地域の活性化に貢献できるよう、集客力と情報発信力の向上に努めます。
- 沿川自治体や河川管理者と連携しながら、木曾三川沿いのサイクリングロードのネットワーク化やスポーツ・レクリエーションイベントの開催に取り組みます。



チューリップ祭り



自治体と連携した
スポーツイベント

既存施設の適切な修繕・リニューアル、計画的な維持管理を行います

- 整備後、年数が経過し、老朽化が進んでいる施設等については、長寿命化の観点による適切な修繕・リニューアル(内容の更新)や計画的な維持管理により、ストックの有効活用を進めます。



経年変化に伴う再整備
(138タワーパーク・ふれあい広場)

老朽化に伴う再整備
(木曾川水園上流部)

<管理運営>

利用者や市民団体・NPOの方々とともに、管理運営を行います

- NPOやボランティアの方々との協働により、環境教育プログラムの充実や指導者育成、草花の維持管理などを行います。
- 市民の方々との協働・連携を進めるにあたり、計画や整備に対する意見交換を進めます。



ボランティアによる活動



ワーキング等による意見交換

リサイクル・省資源に配慮した管理運営を行います

- 園内で発生する剪定枝等の堆肥化や雨水の再利用、河川整備で発生する残土利用など、資源の有効利用とコスト縮減に努め、循環型社会の形成に寄与します。

省資源に配慮した管理(みどりのカーテン等)



堆肥化施設整備

4. 各拠点の整備・管理運営方針

(1) 三派川地区

三派川地区は、木曾川河口から約57km地点から犬山頭首工までの延長約28km、計画面積約2,471haの地区です。地区の中央部では、木曾川が北派川、本川、南派川の3つの流れに分流しています。

この地区では、砂礫河原、ワンド、樹林地など変化に富んだ自然環境がみられます。また、猿尾堤など江戸期の治水事業の跡が残るほか、木材などの物資輸送の中継基地であった川湊や渡し跡が分布していることも特徴です。

取り組み方針(国営木曾三川公園基本計画(平成20年12月改定))

<自然環境>

河原などの多様な自然とのふれあいを通じた川や身近な自然への理解

<歴史文化>

近世の木曾川の利用・治水と沿川地域の発展の歴史の理解

<広域貢献>

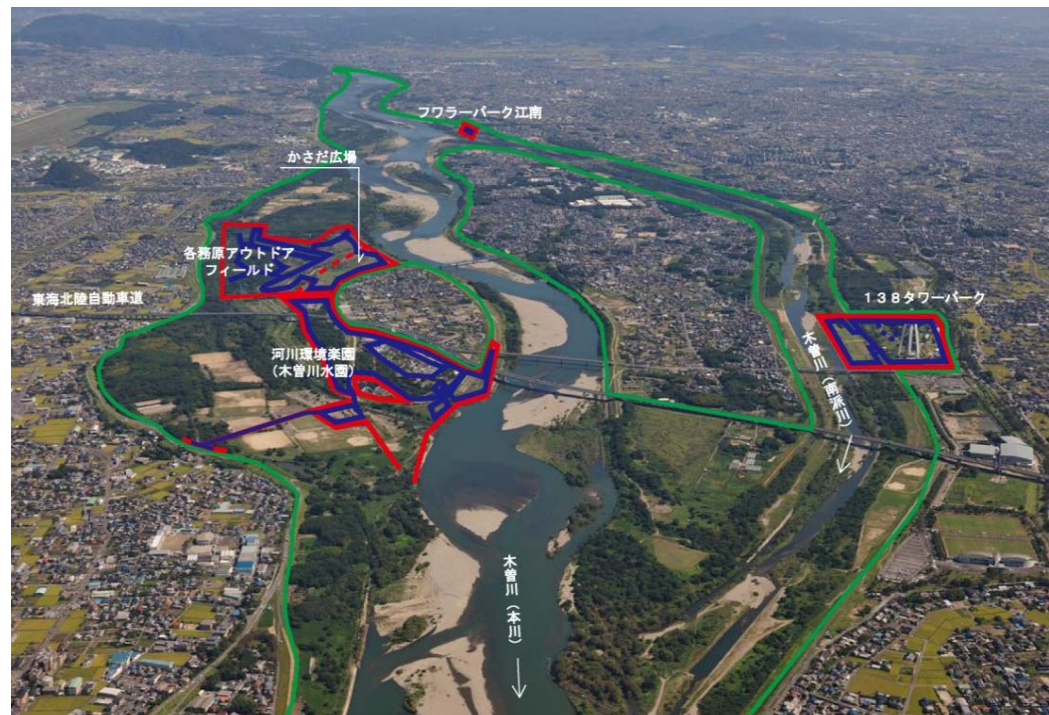
花とみどりを通じた人々の交流とにぎわいの創出と、広大な河川空間を活かした健康づくり

①フラワーパーク江南、かさだ広場・各務原アウトドアフィールド、138タワーパークでは、森の環境や特徴的な河川環境の再生・整備など、開園区域の拡大をめざします。また、開園している区域では、既存施設の適正な修繕・リニューアル、計画的な維持管理を行います。

②周辺自治体と連携したサイクリングロードのネットワーク化・レンタサイクルの運営、スポーツ・レクリエーションイベントの開催などにより利用促進を図ります。また、NPOやボランティアの方々との協働による環境の保全・再生や環境学習などの一層の充実を図ります。さらに、歴史文化資源の活用に向けた情報発信を行います。

③堆肥化施設の本格運用などにより、リサイクル・省資源に配慮した運営を行います。

④三派川地区は、豊富な歴史的資源が分布し、水運を通じた上流域との関わりや利水の歴史など木曾三川の歴史文化に触れる場としての可能性を有しているため、新たな拠点として位置づけることの適否や立地の可能性を含めて、引き続き検討していきます。



最上流部(下流より望む)



最上流部(上流より望む)

[三派川地区] フラワーパーク江南

【方針】

整備：里山景観をイメージしたⅡ期エリアの整備に着手します。
管理運営：環境学習プログラム、園芸福祉に取り組みます。

愛知県江南市
 事業着手年度：平成15年度 事業承認面積：38.9ha
 供用開始年月：平成19年10月 供用面積：11.3ha

『花とみどりの学習』暮らしの中での自然とのふれあい
 都市緑化の学習拠点をめざして平成19年10月に開園しました。暮らしの中に花やみどりを取り入れたり、身近な自然にふれる場となるよう、様々な生活場面に応じた緑化・花卉修景を進めています。平成24年度の堆肥化施設整備をもってⅠ期エリア整備を完了しました。花壇管理やイベント運営でも、ボランティアとの協働による運営管理を進めています。

重点事項：
 (整備) ○里山の環境を学ぶ場を整備します。
 ○沿川のまちづくりと連携した「つなぐ」取り組みを進めます。(遊歩道・サイクリングロードのネットワーク化)
 (管理運営) ○園芸福祉等の先進的な取り組みを行います。
 ○リサイクル・省資源に配慮した管理運営を行います。



整備方針：
 ○故郷の森(Ⅱ期エリア)の整備(地域特有の風土から生まれた樹林の活用)

○園内園路とサイクリングロードのネットワーク化、レンタサイクル運営に向けた施設整備

管理運営方針：
 ○ボランティア組織との協働による「環境教育プログラム」への展開



○五感で楽しめる園芸の展開(植物と接し栽培する楽しみや喜びを共有する「園芸福祉」)



○堆肥化施設の本格運用

■主な供用施設



クリスタルフラワーとメイン花壇 市民花壇 空の庭(反射池) 100mの藤棚

事業効果：○環境学習機能が充実します。 ○ノーマライゼーションが推進します。

[三派川地区]かさだ広場・各務原アウトドアフィールド

【方針】

整備：礫河原環境の再生をめざします。
管理運営：市民と協働による環境保全を推進します。
 地域と連携したイベント開催して利用促進を図ります。

岐阜県各務原市
 事業着手年度：昭和63年度（かさだ）平成13年度（各務原）
 事業承認面積：11.4ha（かさだ）43.1ha（各務原）
 供用開始年月：昭和63年7月（かさだ）平成17年3月（各務原）
 供用面積：11.3ha（かさだ）10.8ha（各務原）

『河川の広大な空間と豊かな自然』
河川特有の自然環境の保全・再生と自然を活かした健康増進
 河川特有の自然環境（カワラサイコ・カワラヨモギ等が生息）を保全・再生しながら、広大な空間と豊かな自然の中で健康づくりやレクリエーション、自然散策などが楽しめる場となるよう整備を進めています。また、市民の方々や研究機関などの協力を得ながら、竹林の活用や外来生物対策などに取り組んでいます。

重点事項：
 （整備）○河川環境を保全・再生し、川に親しみ学ぶ場を整備します。
 ○沿川のまちづくりと連携した「つなぐ」取り組みを進めます。（園路のネットワーク化）
 （管理運営）○周辺自治体、市民、研究機関の方々との協働による管理を推進します。
 ○新たに地域と連携したスポーツ・レクリエーションイベントを開催して利用促進を図ります。



整備方針：
 ○礫河原環境の再生整備と外来種対策
 ○遊歩道、サイクリングロードの整備（自治体との連携）



現況



礫河原環境の再生

管理運営方針：
 ○竹林管理と外来生物対策による河原環境の保全・再生の発展（市民や研究機関、自治体等との協働）
 ○自治体と連携して、広大な敷地を活かした誰でも参加できるスポーツ・レクリエーションイベントの開催による利用促進（マラソンやアウトドアスポーツ等）



協働による外来生物対策・活用

■主な供用施設



周遊園路



芝生広場



遊具広場



広大な空間の活用



スポーツ・レクリエーションイベント

事業効果：○礫河原環境の保全・再生や外来種対策などのモデル的な取り組みにより、生物多様性保全への貢献と学習機能が充実します。
 ○自然環境をいかした様々なスポーツ・レクリエーションイベントの実施により多様化する利用者のニーズに対応できます。

[三派川地区] 河川環境楽園 (木曾川水園)

【方針】

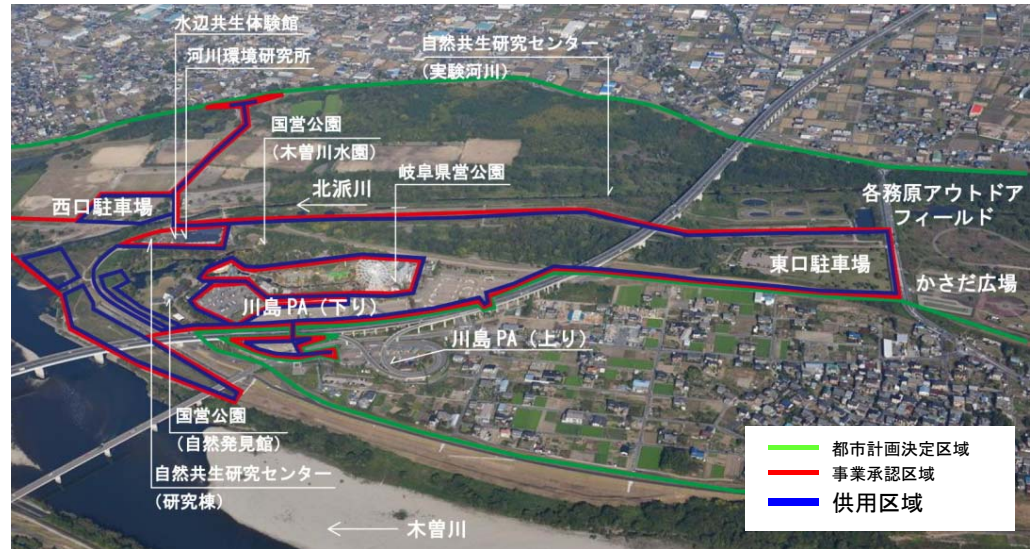
整備：園路等の再整備により防災機能を拡充し地域に貢献します。
管理運営：地域の自然や歴史を活かした環境学習の充実を図ります。

岐阜県各務原市・羽島郡笠松町
 事業着手年度：平成7年度 事業承認面積：41.9ha
 供用開始年月：平成11年7月 供用面積：32.9ha

河川環境楽園のテーマ 『川の自然と文化の環境共生型テーマパーク』
 (木曾川水園の役割：木曾川が育んだ自然や風土・文化を遊びながら学ぶ)

河川環境楽園は、木曾川の情景や自然環境を再現した「木曾川水園」のほか、世界淡水魚園や自然共生研究センターなどからなり、川の自然と文化に関する環境共生型テーマパークです。

「木曾川水園」では、木曾川の雄大な景観を楽しめる遊歩道・サイクリングロードの整備、また、隣接する研究施設やNPOと協働・連携しながら、環境教育プログラムの提供や指導者育成に取り組んでいます。



重点事項：

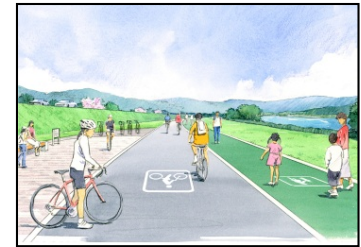
- (整備) ○沿川のまちづくりと連携した「つなぐ」取り組みを進めます。(サイクリングロードのネットワーク化)
- (管理運営) ○再現した自然環境・景観の施設修繕を行います。
- 環境学習のさらなる充実を図ります。

整備方針：

- 遊歩道、サイクリングロード整備 (地域との連携)
- 園内園路等ネットワークの再整備 (繁忙期の通行円滑化、災害時の広域連携への貢献等)



園内園路等の再整備 (既存園路の渋滞状況)



遊歩道・サイクリングロード



広域防災 (広域支援基地設置訓練)

管理運営方針：

- 木曾川水園 (上流から下流までの情景・自然環境を再現) の施設修繕
- 環境教育プログラムの充実 (地域の自然や歴史を活用)

■主な供用施設



木曾川水園(上流部)



木曾川水園(下流部)



木曾川水園(農家と河原)



環境学習活動

事業効果：○周辺の魅力ある地域資源 (川島ふるさと史料館・笠松トンボ天国など) との一体利用を推進することにより、地域が活性化します。
 ○風土・文化をいかした環境教育プログラムが充実することで、河川環境への理解が深まります。

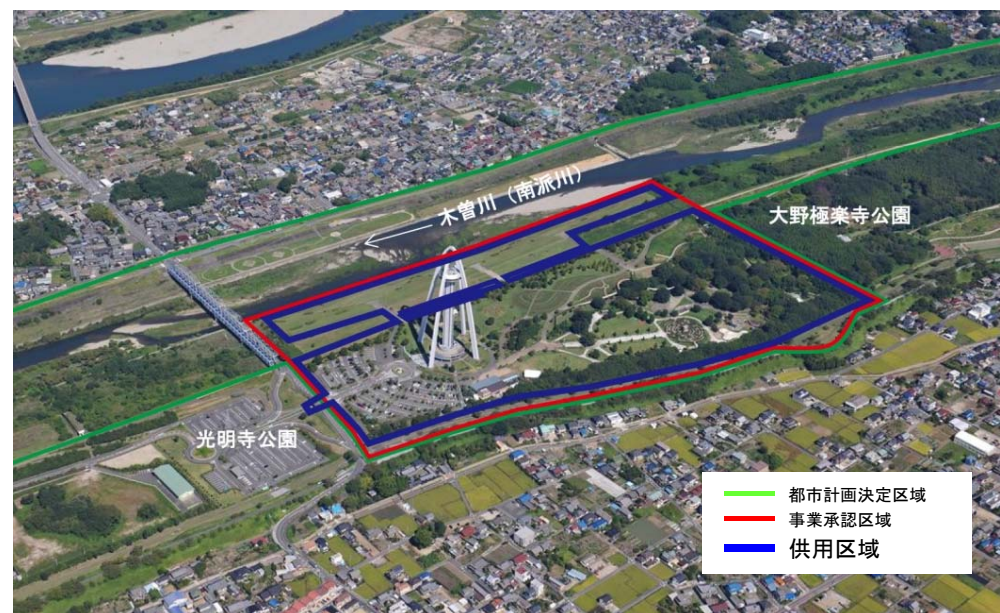
[三派川地区] 138タワーパーク

【方針】

整備：平成25年度の概成をめざします。
管理運営：河畔林や歴史文化資源と連携した環境学習に取り組みます。

愛知県一宮市
 事業着手年度：昭和62年度 事業承認面積：26.4ha
 供用開始年月：平成7年4月 供用面積：20.4ha

『三派川地区の総合拠点』 三派川地区の自然、歴史文化、交流
 三派川地区の自然や歴史文化を幅広く紹介・情報発信するとともに、多くの人々が集い、交流する総合拠点として位置づけています。
 木曾川の雄大な流れを眺望できる「ツインアーチ138」をはじめ、大花壇、自然体験施設「もくもくパラダイス」や樹冠回廊など、大規模でユニークな施設が整備されています。また、花のイベントやイルミネーションなど年間通じて様々なイベントを開催しています。



■主な供用施設



重点事項：
 (整備) ○沿川のまちづくりと連携した「つなぐ」取り組みを進めます。(サイクリングロードのネットワーク化)
 (管理運営) ○住民参加による河畔林の自然づくりや歴史文化資源と連携した環境学習に取り組みます。

整備方針：
 ○木づきの森の整備 (樹冠タワー)
 ○遊歩道、サイクリングロードのネットワーク整備
 H25年度整備イメージ



管理運営方針：
 ○周辺の歴史文化資源の活用に向けた情報発信 (御困堤など江戸期の治水事業等の歴史文化遺産の展示・解説)



マップによる情報発信
 歴史文化遺産
 ○住民参加による河畔林の自然づくりや歴史文化資源 (御困堤・猿尾堤など) と周辺施設と連携した環境学習の開催
 ○利用促進につなげるため周辺施設と連携した渋滞対策



事業効果：○拠点周辺へ周遊しやすくなることで、沿川のまちづくりとの連携が進みます。
 ○三派川地区の総合拠点として、河畔林の自然や歴史文化資源に触れることのできるきっかけが充実します。

(2) 中央水郷地区

中央水郷地区は、木曾川、長良川、揖斐川の木曾三川が接する地点を中心に、南北約20km、計画面積約3,637haに及ぶ本公園で最も大きな面積をもつ地区です。

この地区では、ワンド、ヨシ原、干潟、河川砂丘など多様な水辺がみられます。また、宝暦治水や明治改修などの治水事業の遺産が各所にみられ、水郷地帯特有の景観や生活文化が感じられることも特徴です。

取り組み方針(国営木曾三川公園基本計画(平成20年12月改定))

<自然環境>

水辺の体験を通じた川への理解

<歴史文化>

川と闘い川と調和してきた水郷地帯の人々の歴史と文化の理解

<広域貢献>

花とみどり、スポーツ、文化活動を通じた人々の交流とにぎわいの創出と、福祉の推進

- ①水辺の自然環境や水郷景観に親しみ、治水事業の歴史を学ぶ場として、(仮称)桜堤サブセンター・木曾長良背割堤、(仮称)大江緑道、(仮称)鵜戸川の計画検討や整備を市民の方々と協働で進めます。
また、開園している区域では、施設の適正な修繕・リニューアル、計画的な維持管理を行います。
- ②周辺自治体や様々な団体と連携したスポーツ・レクリエーションイベントの開催などにより、利用促進を図ります。
また、NPOやボランティアの方々との協働による河川環境の保全・再生、歴史文化資源の活用、環境学習の充実を図ります。
- ③周辺地域との一体的な利用の促進に向けて、アクセス道路の計画的な整備、交通アクセスに配慮した運営、サイクリングロードのネットワーク化などを図ります。



[中央水郷地区] ワイルドネイチャープラザ (サリオパーク祖父江)

【方針】

整備：祖父江砂丘のさらなる保全・再生をめざします。
管理運営：砂丘の利用促進を図ります。

愛知県稲沢市
 事業着手年度：平成7年度 事業承認面積：31.5ha
 供用開始年月：平成8年8月 供用面積：25.0ha

『祖父江砂丘の保全と活用』 木曽川特有の河岸砂丘の保全と砂丘をいかした水辺のレクリエーション

木曽川特有の河岸砂丘である「祖父江砂丘」を活かし、ウィンドサーフィン等の水辺レクリエーションが楽しめるように、水辺に近づきやすい川岸やトイレ・シャワー、バーベキューが楽しめるピクニック広場・デイキャンプ場などを整備しています。
 隣接する愛知県営公園、稲沢市営公園との3公園で連携した運営を進めており、平成24年度に3公園の愛称が「サリオパーク祖父江」に決定しました。

重点事項：
 (整備) ○貴重な河岸砂丘を保全・再生し、砂丘を活用できる場を整備します。
 (管理運営) ○周辺施設や協力団体と連携し、年間を通した様々なイベントの開催による利用促進を図ります。

整備方針：
 ○全国的に珍しい河岸砂丘の保全・再生 (中部に1箇所、関東に2箇所)
 ○展示・交流拠点、利用拠点となる施設の検討



○周辺施設との一体的な利用に向けたサイクリングロード等の検討

管理運営方針：
 ○ボランティア組織の参加による砂丘の保全、再生活動
 ○周辺施設 (県営公園・市営公園等) や砂像連盟等の協力団体と連携した年間利用計画の設定

■ 主な供用施設



事業効果： ○貴重な河岸砂丘の保全・再生、活用の推進により、屋外レクリエーション機能が充実します。

[中央水郷地区] (仮称) 桜堤サブセンター・木曾長良背割堤

【方針】
整備： (仮称) 桜堤サブセンター (高水敷エリア) と背割堤の
新規開園をめざします。
管理運営： 歴史的な治水施設の活用と河川環境の保全に取り組みます。

岐阜県羽島市 (仮称) 桜堤サブセンター
 事業着手年度：平成19年度 事業承認面積：48.4ha
 供用開始年月：未供用
 岐阜県海津市・愛知県愛西市 (仮称) 木曾長良背割堤
 事業着手年度：平成一年度 事業承認面積：21.2ha

『背割堤周辺の自然と歴史』 木曾三川の水辺と歴史遺産の実体験
 ワンドやオギ原、ヤナギ林など木曾長良背割堤に残る豊かな水辺環境の保全と、ケレップ水制や桜並木などの歴史遺産に触れることができる場となることをめざし、平成19年度より高水敷エリア整備に着手しています。

重点事項：
 (整備) ○自然環境に親しみ、歴史的な治水施設を学ぶ場を整備します。
 (管理運営) ○利用者や市民団体・NPOと連携した管理運営をめざします。



整備方針：
 ○自然環境に親しみ、歴史的な治水施設を学ぶ場となる (仮称) 桜堤サブセンター (堤内地) ・木曾長良背割堤の事業化
 ○アクセス道路の計画的整備 (関係自治体と連携)
 ○特徴的な河川環境に配慮した遊歩道、サイクリングロードの整備



桜並木整備イメージ

管理運営方針：
 ○歴史文化資源の活用や多様な河川環境の保全のための協働体制づくり



歴史文化資源の活用(ケレップ水制※)



多様な河川環境の保全(ワンド等※)

■ 主な整備中の施設



(仮称) 桜堤サブセンター(高水敷エリアの広場)

○沿川自治体と連携した水面の利活用検討

※ケレップとはオランダ語で水制のこと。粗朶と土・石で作られた水制で、デ・レーケなどのオランダ人技術者によって我が国に導入された。
 ※ワンドとは、河川敷にできた池状の入り江のこと。



事業効果：○木曾三川特有の歴史的な治水施設を活用できます。 ○中流域から下流域がつながるネットワークの一部となります。

[中央水郷地区]長良川サービスセンター

【方針】

整備：平成25年度の概成をめざします。
管理運営：水辺を活かしたスポーツやレクリエーションの利用促進を図ります。

『水上スポーツ』

競技スポーツから障がい者スポーツ・レクリエーションまで、長大な水面と河川敷を活かした高度なスポーツ・レクリエーション
 長大な水面と河川敷を活かした高度なスポーツ・レクリエーションの拠点として整備を進め、競技スポーツから障がい者スポーツ・レクリエーションまで、様々なスポーツやレクリエーションが楽しめます。
 また、競技団体や大学等と連携しながら水上スポーツや障がい者スポーツ等の活動や、指導者育成の拠点として活用されています。



■主な供用施設



サンドコート



テニスコート



レガッタコース

岐阜県海津市・愛知県愛西市
 事業着手年度：昭和55年度 事業承認面積：88.8ha
 供用開始年月：平成12年10月(平成14年4月水面、昭和62年10月高水敷)
 供用面積：88.7ha(水面59.4ha 高水敷28.32ha)

重点事項：

- (整備) ○安全・快適に利用できる施設を整備します。
- (管理運営) ○水辺を活かしたスポーツやレクリエーションの利用促進を図ります。

整備方針：

- 安全・快適な利用に資するトイレ、係船設備の整備



係船設備



循環式トイレ

管理運営方針：

- 競技団体や大学等との連携の強化による水面利用プログラム、障がい者スポーツ・レクリエーションや競技大会等の充実
- 競技団体や大学などによる施設の計画的な活用による公園全体の利用促進



水面を利用した競技大会や体験活動



各種スポーツの競技大会の誘致

事業効果：○水面や長大な河川敷を利用した多様なスポーツ、レクリエーションが楽しめる機会が充実します。

[中央水郷地区] アクアワールド水郷パークセンター・（仮称）大江緑道

【方針】

整備：平成25年度に（仮称）大江緑道の整備に着手します。
管理運営：水郷を活かした環境学習や歴史学習の充実を図ります。

岐阜県海津市 アクアワールド水郷パークセンター
 事業着手年度：平成2年度 事業承認面積：8.1ha
 供用開始年月：平成4年4月 供用面積：8.1ha
 岐阜県海津市 （仮称）大江緑道
 事業着手年度：平成一年度 事業承認面積：30.5ha

『水郷の自然と風景』 水郷地帯の趣を残す大江川の景観と水辺の自然とのふれあい、環境学習の推進

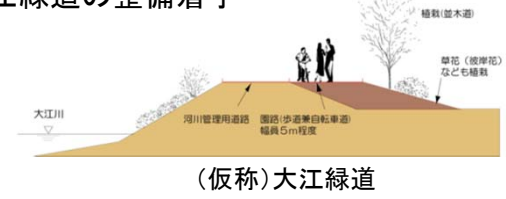
アクアワールド水郷パークセンターは、市民団体やNPO等とパートナーシップを結び、環境学習や歴史学習など幅広い市民活動の場として利用されています。



重点事項：
 (整備) ○水郷景観や川に親しみ学ぶ場を整備します。
 (管理運営) ○環境学習や歴史学習の充実を図ります。

整備方針：

○拠点間の連続的な利用・広域的な利用、環境学習・歴史学習の展開へ寄与する（仮称）大江緑道の整備着手



管理運営方針：

○希少水生生物の保全等に関する環境学習の提供
 ○水郷地域の歴史・文化にまつわる環境教育プログラムの検討

■主な供用施設



風車



パークパートナー棟



環境学習活動



事業効果： ○輪中地域の歴史・文化を保全・再生し、地域の風土を将来の世代が継承できます。
 ○希少水生生物などに着目したプログラムなど環境学習活動が充実します。

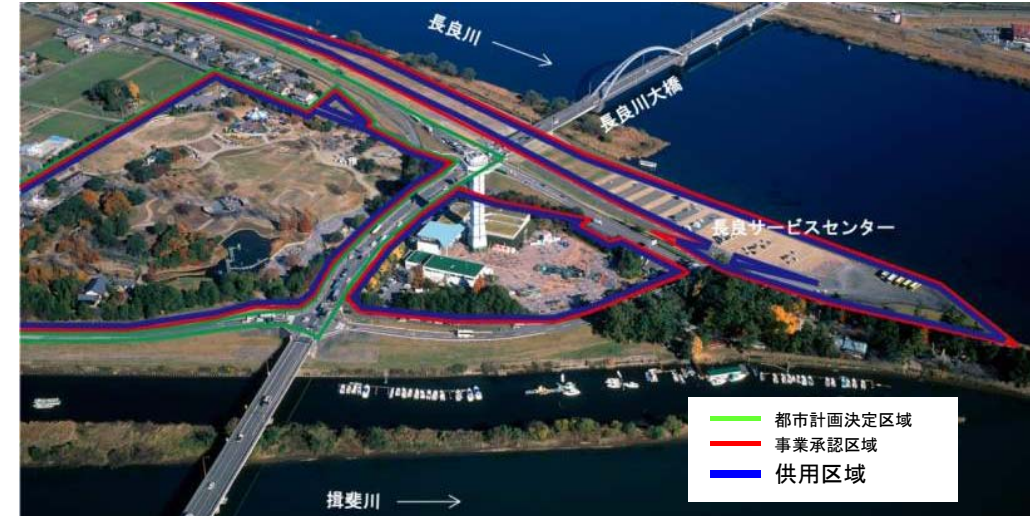
[中央水郷地区]木曾三川公園センター

【方針】

整備：平成25年度の概成をめざします。
管理運営：輪中の歴史文化に関する学習プログラムや
 周辺施設と連携したイベントの充実を図ります。

岐阜県海津市
 事業着手年度：昭和55年度 事業承認面積：12.3ha
 供用開始年月：昭和62年10月 供用面積：11.0ha

『中央水郷地区の総合拠点』 中央水郷地区の自然、歴史文化、交流
 昭和62年10月に本公園で最初に開園した拠点で、中央水郷地区の自然や歴史文化を幅広く紹介・情報発信するとともに、多くの人々が集い、交流する総合拠点として位置づけています。展望タワーから木曾三川の雄大な流れや輪中地域独特の地形を眺望できるほか、「水と緑の館」では映像などで木曾三川にまつわる歴史文化等をわかりやすく紹介しています。輪中特有の民家（水屋など）では、木曾三川流域の人々の暮らしを体験することができます。
 また、施設の老朽化対策や園内施設のユニバーサルデザイン化も進めています。さらに、年間を通じて花のイベントやイルミネーションなど、様々なイベントを開催しています。



■主な供用施設



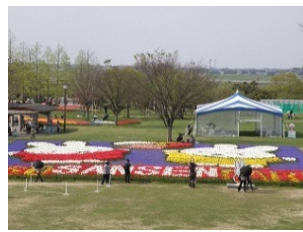
重点事項：
 (整備) ○イベント時等に安全・快適に利用できる施設を整備します。
 (管理運営) ○輪中の歴史文化に関する学習プログラムや周辺施設と連携したイベントの充実を図ります。

整備方針：
 ○エントランス、駐車場の整備
 ○あづまやなど利便性向上のための施設整備



利便性向上施設・エントランス

管理運営方針：
 ○花修景、イベントの充実（イルミネーション・植物アート等）による利用促進
 ○自治体や近接施設との連携によるイベントの開催



植物アート



イルミネーション



花修景



植物アート



自治体との連携によるイベント運営
 (チューリップ祭りでのシャトルバス運営)



事業効果：○園内全体の利便性が向上します。 ○地域と連携したイベントの充実により地域の活性化に貢献します。

[中央水郷地区] 東海広場・（仮称）鵜戸川

【方針】

整備：平成25年度から（仮称）鵜戸川の整備に着手します。
管理運営：多目的に利用できる水辺空間のさらなる利用促進を図ります。

愛知県愛西市 東海広場
 事業着手年度：平成元年度 事業承認面積：24.3ha
 供用開始年月：平成2年4月 供用面積：20.1ha
 愛知県愛西市 （仮称）鵜戸川
 事業着手年度：一年度 事業承認面積：13.8ha

『水辺の自然と広大な空間』

水辺の自然に親しみ、広々とした空間の中で集う
 水辺の自然に親しみ、広大な水辺の空間の中で各種スポーツやイベント、デイキャンプなど様々な屋外レクリエーションを楽しむことができるエリアとして整備を進めています。

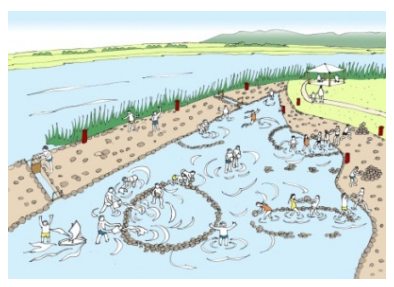


重点事項：

- (整備) ○水辺を活かした屋外レクリエーション等を楽しむエリアを拡充し、（仮称）鵜戸川に（河川管理者による）水防拠点と連携した公園施設を整備します。
- (管理運営) ○多目的に利用できる水辺空間のさらなる利用促進を図ります。

整備方針：

○水辺の自然に親しめる川遊びの広場整備



（仮称）鵜戸川 整備イメージ



多目的芝生広場（東海広場左岸）

管理運営方針：

○各種団体等と連携したスポーツイベント等の屋外レクリエーションの実施

■主な供用施設



一万人広場（右岸）



多目的芝生広場（左岸）



デイキャンプ場・バーベキュー広場（左岸）



バーベキュー広場（右岸）



リレーマラソン



ランニング大会

事業効果：○（仮称）鵜戸川における新たなスポーツやレクリエーションのエリアの整備、様々な団体等と連携したイベントの実施により、多様な利用者のニーズに対応できます。

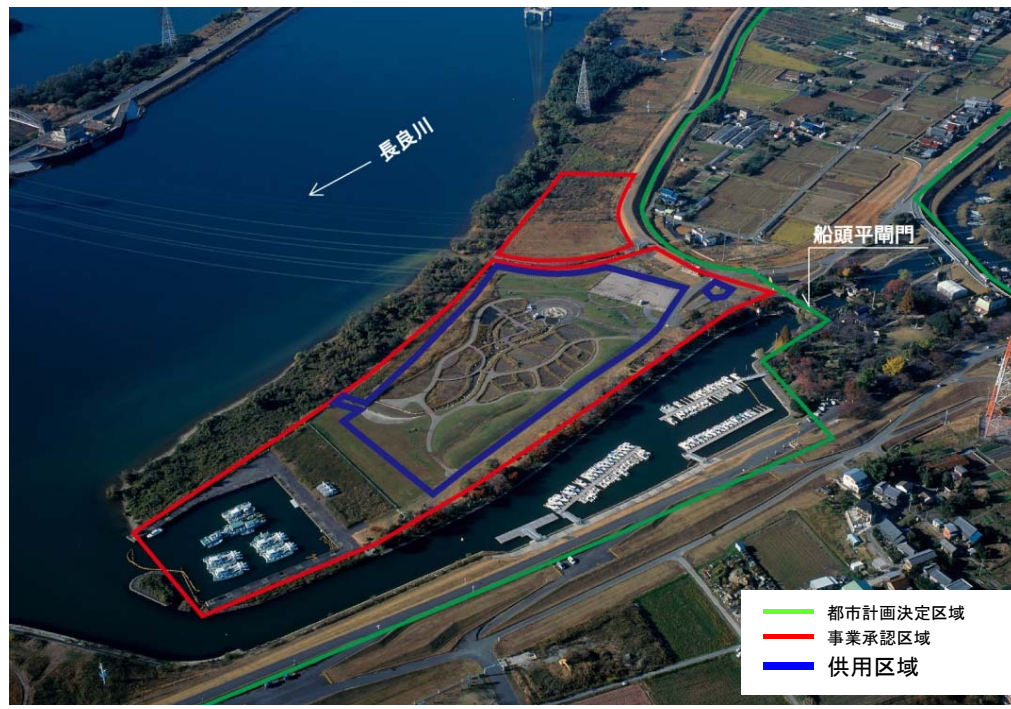
[中央水郷地区] 船頭平河川公園

【方針】

管理運営：ハス田修景池の適切な保全と広報による利用促進を図ります。

愛知県愛西市
事業着手年度：平成12年度 事業承認面積：4.8ha
供用開始年月：平成14年4月 供用面積：2.7ha

『木曾三川の水生植物』 ～花蓮を中心とした美しい憩いの場
水に囲まれた立地を活かし、ハスをはじめカキツバタ、コウボネ、ハナショウブ、スイレンなど様々な花がみられる美しい憩いの場として整備しています。



■ 主な供用施設



ハス田

重点事項：
(管理運営) ○ハス田修景池の適切な保全と広報による利用促進を図ります。

整備方針：－

管理運営方針：
○水生植物による修景
○広報活動による利用促進
(周辺のハスの名所、木曾川文庫、船頭平閘門などとの連携)

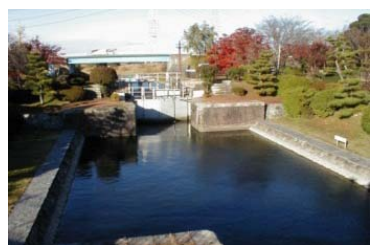


ハスの開花時期等の利用促進



広報活動による利用促進

周辺施設



船頭平閘門



木曾川文庫

事業効果：○水生植物による良好な景観を維持・保全できます。

[中央水郷地区]カルチャービレッジ

【方針】

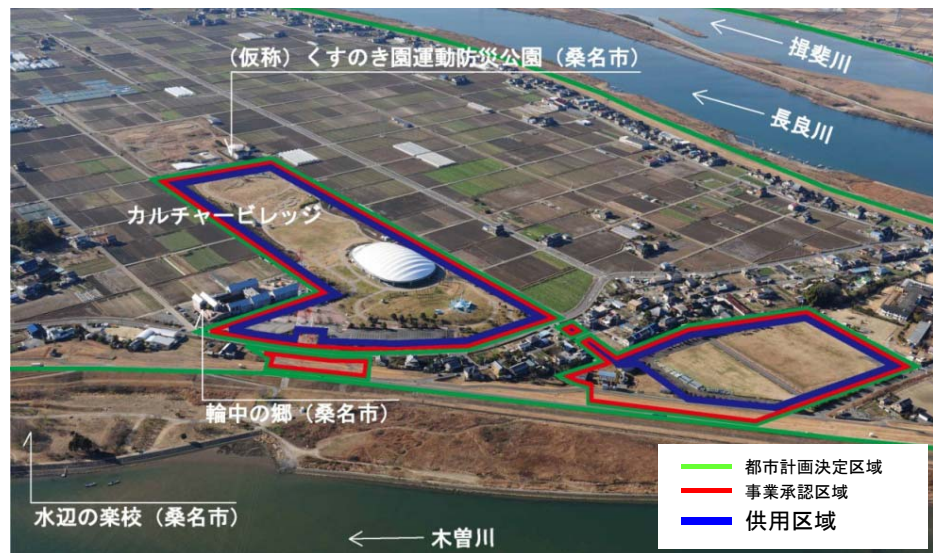
整備：平成25年度の概成をめざします。
管理運営：周辺施設と連携したイベントの充実を図ります。

三重県桑名市
 事業着手年度：平成3年度 事業承認面積：16.3ha
 供用開始年月：平成8年5月 供用面積：14.2ha

『多様な文化活動を通じた広域交流』
 ～文化活動やスポーツなど多様な活動を通じたにぎわいの創出
 スポーツや文化交流など多様な活動を通じて多くの人々が集い、にぎわいを創出する地域交流の拠点となることをめざしています。
 平成19年11月に多目的運動場「輪中ドーム」がオープンし、平成22年10月に追加開園しました。「輪中ドーム」を活用した大規模な地域イベントや近接施設との連携も行われています。さらに、桑名市と災害時の協定締結も行っています。

重点事項：
 (整備) ○安全快適に利用できるように日陰施設等を整備します。
 (管理運営) ○周辺施設と連携したイベントの充実を図ります。

整備方針：
 ○快適に利用するための日陰施設整備 (山のゾーン)
 ○「水辺の楽校」など周辺施設との一体利用を促進する連絡路の整備



日陰施設イメージ
 「水辺の楽校」との連絡路 整備予定箇所

■主な供用施設



多目的運動場「輪中ドーム」 大型遊具 霧の輪中

管理運営方針：
 ○「輪中の郷」(桑名市)との連携による歴史文化資産を活用したイベントの開催
 ○「輪中の郷」や「水辺の楽校」(桑名市)など周辺施設との一体利用による環境学習の展開



地域連携イベント(水郷フェスタ)

事業効果：○休養施設の整備により、利便性が向上します。
 ○周辺施設との連携により歴史・文化・自然の学習機会が充実します。

(3) 河口地区

河口地区は、尾張大橋より南の木曾川下流域、伊勢大橋より南の長良川・揖斐川の下流域を予定区域としています。河口地区の一部である（仮称）七里の渡地区の9.6haが、平成19年8月に都市計画決定され平成20年度に事業着手しています。

この地区では、広大な水面とヨシ原、干潟など汽水域の自然環境がみられます。また、七里の渡跡の周辺には水運基地として栄えた桑名の歴史を物語る文化財群がみられるほか、多くの地域が干拓によって形成されてきたことも特徴です。

取り組み方針(国営木曾三川公園基本計画(平成20年12月改定))

<自然環境>

雄大な景観や恵み豊かな川と海へのふれあいを通じた川や海への理解

<歴史文化>

川と海を結ぶ水運基地や干拓などにより形成された地域の歴史の理解

<広域貢献>

地域のまちづくりや市民・企業などとの連携

- ①歴史遺産を活かしながら地区のまちづくりと一体となった公園として、（仮称）七里の渡地区の整備を進めます。
- ②今後、社会情勢や地域状況の変化等を踏まえながら、引き続き、木曾川や揖斐川河口における拠点である（仮称）河口地区センター等の整備の考え方等の見直し、河口地区の新たな区域や拠点の役割、配置等を検討します。



[河口地区] (仮称) 七里の渡地区

【方針】

整備：平成27年度に新規開園をめざします。
管理運営：市民活動やNPOとの協働により、周辺まちづくりと連携した
 伝統文化の継承と利用促進を図ります。

三重県桑名市
 事業着手年度：平成20年度 事業承認面積：9.6ha
 供用開始年月：未供用

『木曾三川を軸とした交流と繁栄の歴史』 ～川やまちと一体となった歴史公園

一帯は東海道の要衝「七里の渡」をはじめ、地域の象徴であった桑名城跡や旧東海道の街並み、国の重要文化財六華苑（旧諸戸家住宅）、史跡名勝天然記念物諸戸氏庭園等が残る歴史的なエリアとなっています。
 (仮称)七里の渡地区は、川とまちを結び木曾三川を中心とした人や物の交流が生まれ、文化を育み、地域の繁栄につながった歴史を紹介する情報発信拠点として計画しています。平成20年度に事業着手しました。



■主な周辺施設



諸戸氏庭園



六華苑(旧諸戸家住宅)

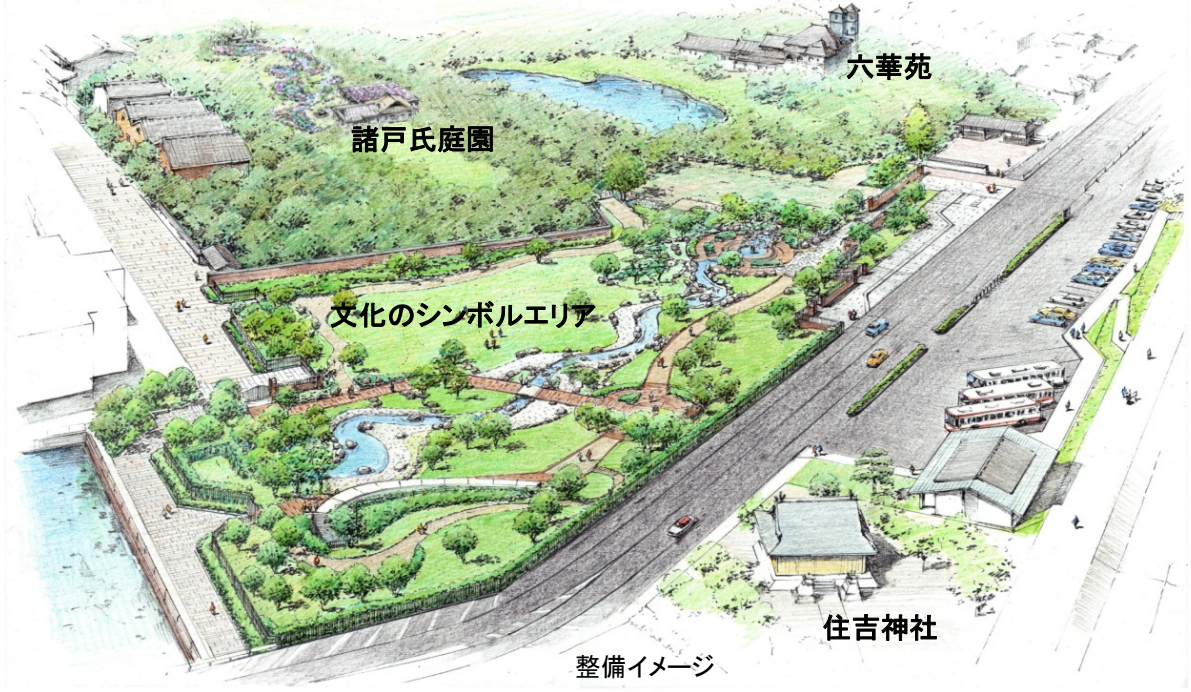


七里の渡跡

重点事項：
 (整備) ○川沿いに集積する歴史文化遺産を結んだ一体的な整備を図ります。
 (管理運営) ○市民活動やNPOとの協働により、周辺まちづくりと連携した伝統文化の継承と利用促進を図ります。

整備方針：

- 日本庭園（文化のシンボルエリア）の整備
- 一体的な歴史遺産（六華苑、諸戸氏庭園など）の形成



管理運営方針：

- 市民活動やNPOとの協働体制づくり

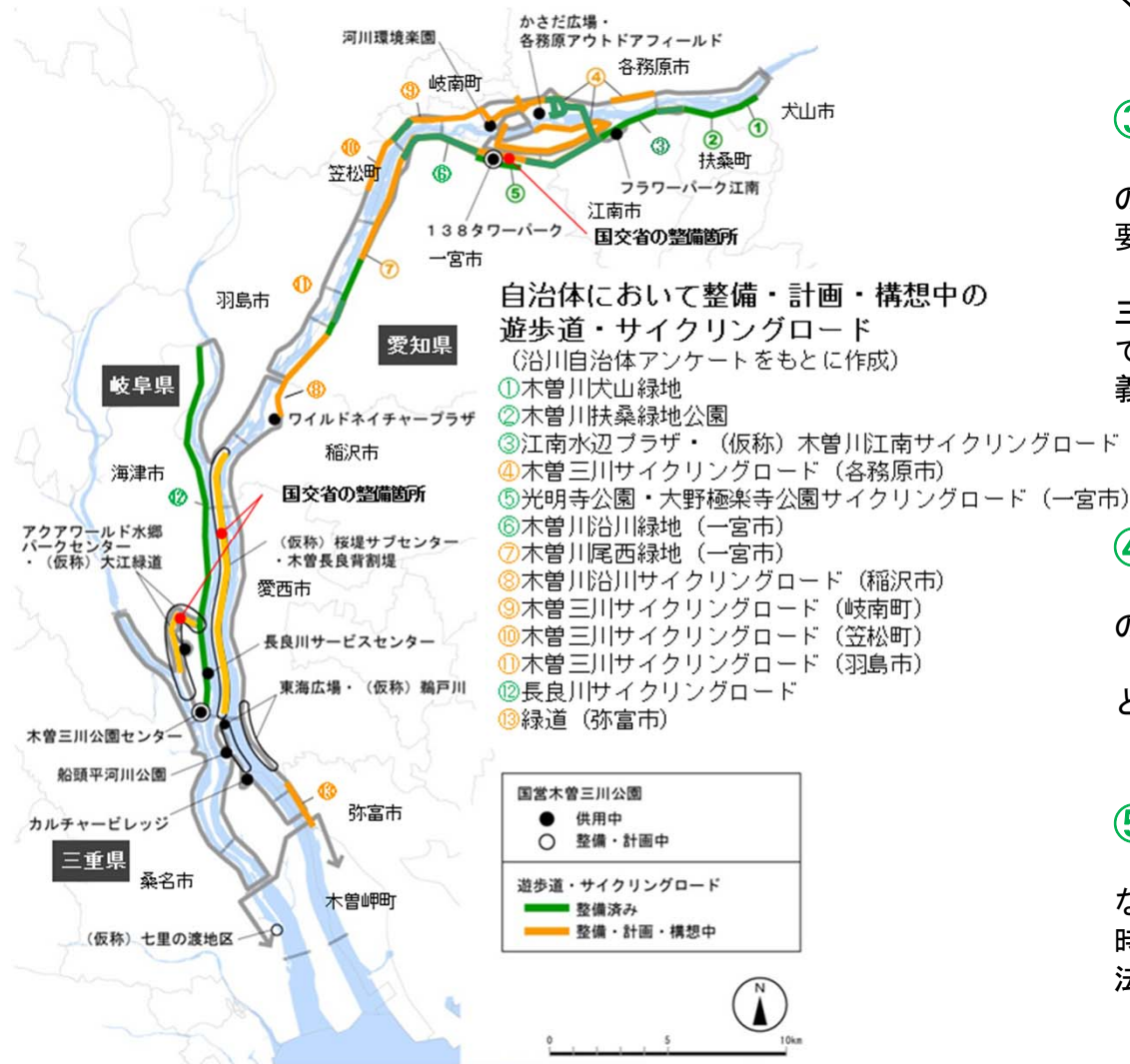
事業効果：○川沿いに集積する（九華公園（桑名城跡）、七里の渡など）歴史遺産を結び地域の魅力が一体化できます。

5. ネットワーク形成のための整備・管理運営方針

①遊歩道・サイクリングロードのネットワーク化

木曾三川の広大な空間を活かすとともに、健康づくりを支援するレクリエーションとしても遊歩道・サイクリングロードは重要な役割があるため、三派川地区のネットワーク拡充と有効活用、中央水郷地区においてはネットワーク整備の事業化に向け、沿川自治体や河川管理者と連携した取り組みを進めます。

また、利用促進のための施設配置や利用情報及び利用者の安全確保についても沿川自治体と連携して取り組みます。



②周辺地域との連携など広域的な利用の促進

周辺の公園緑地や歴史文化資源を広域的にめぐり、木曾三川の雄大な景観や豊かな歴史文化を楽しんでいただけるよう、沿川自治体と連携してマップ作成等の情報提供や、イベントの実施など利用促進に取り組みます。

また、公園へのアクセス向上、交通渋滞の緩和や駐車場の確保などの課題は、関係機関と連携しながら、地域のまちづくりと一体となって取り組みます。



③エコロジカルネットワークとしての魅力や意義の発信

木曾三川は濃尾平野のほぼ中央を貫き、中部圏の骨格的なエコロジカル・ネットワークとして重要な役割を果たしています。

自然環境の連続性を確保した整備に努め、木曾三川のもつ自然環境や風土の魅力を発信することで、水と緑のエコロジカルネットワーク形成の意義を広めていきます。



④流域の一体感の醸成

木曾三川流域全体の自然環境を基礎とした歴史や地域文化、地域資源のつながりを意識した管理運営を進めます。

流域ぐるみのイベントの拡充、拠点連携イベントや流域文化の発信などの取り組みを進め、流域の一体感の醸成に取り組みます。

⑤広域防災への寄与

河川管理者等の関係機関と連携して広域的な防災機能を発揮できるように、大規模災害時における長大な空間や公園施設等の活用方法の検討を進めていきます。



6. 事業効果

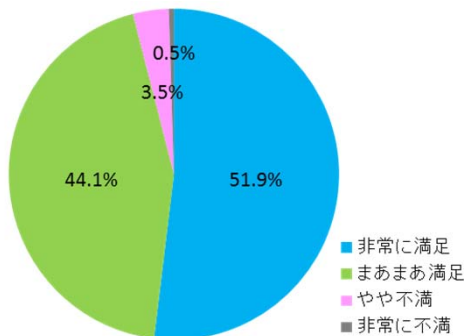
①利用者数の増加

新規拠点の開園、環境学習やイベントの充実などにより公園の魅力が向上し、利用者数の増加が期待されます。

②満足度の向上

川を身近に感じられる空間や安心して利用できる施設を整備するとともに、市民やNPOの方々と協働して質の高いサービスを提供することにより、利用者の満足度や公園への愛着が高まります。

利用者へのアンケート調査では、およそ96%の方から「非常に満足」または「まあまあ満足」との評価をいただいています。今後もさらなる満足度の向上をめざします。



平成23年度利用実態調査(河川環境楽園・138タワーパーク・木曾三川公園センター)

③自然環境や歴史文化への理解の増進

人と川とのふれあいの空間や歴史文化に関する展示学習施設を整備するとともに、質の高い環境教育プログラムを提供することにより、より多くの方々に木曾三川の自然環境や歴史文化を知っていただけます。



歴史文化を活用した環境学習

④水辺景観や生物の生息・生育空間の保全

ワンド、オギ原、水辺林や樹林地などの保全を行うことにより、河川らしい水辺景観や生物の生息・生育環境が保全されます。



多様な河川環境の活用・保全(ワンド等※)

⑤地域の活性化

地域と連携してイベントを行ったり、周辺の公園緑地や集客施設との一体的な利用を促すような施設整備やイベント開催、情報発信等を行うことにより、地域の観光振興やにぎわいの創出に貢献できます。



流域祭

⑥河川空間をいかしたレクリエーションの充実

多目的に利用できる広場やデイキャンプ場などを整備したり、競技団体等と連携しながらイベントの充実を図ることにより、広大な河川空間を活かした特色あるスポーツやレクリエーションをより多くの方々に楽しんでいただけるようになります。



長良川国際トライアスロン



バーベキュー広場

⑦ノーマライゼーションの推進

園内のユニバーサルデザイン化を進めるとともに、障がいのある方も楽しめるレクリエーションや交流の場を提供することにより、ノーマライゼーションの推進に貢献できます。



障がい者カヌー

⑧環境負荷の軽減

維持管理作業により発生する剪定枝や刈草の堆肥化や雨水利用を行うことにより、公園管理に伴う環境負荷が軽減されます。

⑨防災性の向上

避難地や防災拠点としての施設整備により、周辺地域の防災性が向上します。



広域防災(広域支援基地設置訓練)